

太平洋戦争前の子どもの家庭生活

—平成5年度調査より—

末 広 菜 穂 子
石 田 美 清

I. は じ め に

これまで2回の調査研究において、大正・昭和初期における中国・四国地方の学齢期の子どもの日常生活について、その全体像を把握するとともに、生活の細かな部分に見受けられる個性性もできる限り拾い上げることがをめざして調査を行ってきた。その結果、1回目の平成3年度の調査では、当時の子どもたちの生活が家庭を中心にして、それぞれの社会・経済条件に応じ、多様な姿で営まれていたことが全体的にとらえられた⁽¹⁾。2回目の平成4年度の調査では、子どもたちを取り巻く物質生活を中心に調査を行った。そこでは、全体的に質素な生活環境の中に当時の子どもは置かれていたが、家庭の職業等の経済的条件や居住地域等によって、食事の多様化や洋式化の程度など、生活様式に若干の差異が存在したことが明らかにされた⁽²⁾。これを踏まえて、今回報告する平成5年度に行った調査では、特に

- (1) 末広菜穂子、石田美清「中国・四国地方における大正・昭和初期の子どもの生活（上）——家庭・学校生活に関する平成3年度調査——」『広島経済大学研究論集』第15巻第2号（1992年9月）、および、石田美清、末広菜穂子「中国・四国地方における大正・昭和初期の子どもの生活（下）——家庭・学校生活に関する平成3年度調査——」『広島経済大学研究論集』第15巻第4号（1993年3月）〔以下、「平成3年度調査（下）」と略す〕。
- (2) 末広菜穂子、石田美清「大正・昭和初期における家庭生活——中国・四国地方の調査から——」『広島経済大学経済研究論集』第16巻第2号（1993年9月）。

子どもの家庭での生活、家族関係に焦点を絞り、家庭における子どもの活動、地位、両親ないしはその他の家族メンバーと子どもとの関わり方などについて調べ、男女差にも注目しながら、過去の子どもの家庭生活に関しさらに詳しく考察を行うこととした。

II. 調査方法

[1] 調査項目・調査手続

前2回の調査と同じく、まず、子どもの生活時期、生活地域、家族状況、経済状態などの生活の基本的特性を明らかにする。次いで、子どもの生活行動については、一日の子どもの生活時間の内訳を全体的に把握するとともに、その中でもとりわけ家庭で過ごす時間についてどのような活動をどのぐらいの時間行っていたかに調査の重点をおく。さらに、家族関係に関しては、家族間の人間関係がどのように子どもの目にとらえられていたか、子どもに対する家庭の養育・教育がどのようなものであったかについて明らかにしようとした。この目的を達成するため、①調査対象者の特色、②生活時間、③家庭での活動、④家庭内での子どもの養育・教育、⑤兄弟姉妹関係の5項目について、選択式と記述式の両方の質問形式を含む質問用紙を作成した。

調査手続として、調査面談者(学生)に質問用紙を配布してその内容を説明し、調査対象者(主として面談者の祖父母)に対して聞き取り調査を行うよう指示した。調査の集計に当たっては、回答用紙の内容を検討し、調査時の年齢が65才以上のものを選び、さらに、回答に明らかな間違いや不備のあるものを除いて有効回答とした。

[2] 調査時期・回収結果

広島県内にあるH大学学生617名に対して、質問用紙を配布し、その祖父母に対して直接面談して聞き取り調査を行うよう指示した。平成5年7

月8日に質問用紙を配布し、平成5年9月25日までに回収した。有効回答数は、458票であった。

Ⅲ. 調査結果

[1] 調査対象者の特色

1. 調査対象者の性別と年齢

表1に調査対象者の性別、調査面談者との関係を、表2には、調査対象者の年齢分布を示した。

今回の調査では、表1が示すように、女性が306人(66.8%)と多数を占めている。また、調査対象者の平均年齢は74.84歳で、最高齢94歳、最年少65歳であった。最高齢者は明治32年生まれ、最年少者は昭和3年生まれで、31年の差がある。調査対象者の9割以上は65-84歳の年齢層に属しており、この調査の対象時期とした10-12歳頃の学齢期を、大正8年頃から昭和15年頃までの太平洋戦争の開始以前の時期に過ごしている。

表1 調査対象者の性別・面談者との関係

	面談者との関係	回答数 (%)	合計 (%)
男	祖父	144 (31.4)	152 (33.2)
	おじ	8 (1.7)	
女	祖母	293 (64.0)	306 (66.8)
	おば	13 (2.8)	
合計		458	458

表2 調査対象者の年齢分布

年齢	男 (%)	女 (%)	合計 (%)
65-69	23 (15.1)	53 (17.3)	76 (16.6)
70-74	51 (33.6)	112 (36.6)	163 (35.6)
75-80	42 (27.6)	81 (26.5)	123 (26.9)
80-84	28 (18.4)	42 (13.7)	70 (15.3)
85-90	4 (2.6)	15 (4.9)	19 (4.1)
90-94	4 (2.6)	3 (1.0)	7 (1.5)
合計	152	306	458

表3 学齢期の居住地と現在の居住地

地方	県名	学齢期 (%)	現在 (%)
中国	広島	186 (40.1)	208 (45.4)
	山口	46 (10.0)	40 (8.7)
	岡山	27 (5.9)	33 (7.2)
	島根	42 (9.2)	42 (9.2)
	鳥取	7 (1.5)	8 (1.7)
四国	愛媛	47 (10.3)	48 (10.5)
	香川	23 (5.0)	22 (4.8)
	高知	4 (0.9)	3 (0.7)
	徳島	2 (0.4)	1 (0.2)
その他の地域		74 (16.2)	53 (11.6)
合計		458	458

2. 出身地と居住地域

表3が示すように、調査対象者が学齢期を過ごした場所は調査地である広島を中心に中国・四国地方が大方を占めている。現在居住している場所も、学齢期の居住地にはほぼ近い所である者が多いのが特徴である。例えば、最も人数の多い広島県について見れば、学齢期も現在も県内に居住して

いる者は179人である。

3. 家族規模と構成

調査対象者が当時暮っていた世帯の平均人数は7.31人で、世帯規模別の内訳は図1に示しているとおりでである。最大規模の世帯は16人の世帯であ

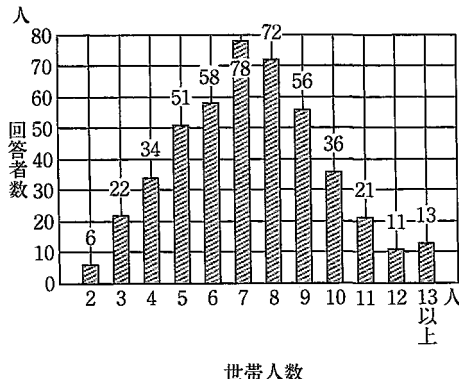


図1 世帯の人数

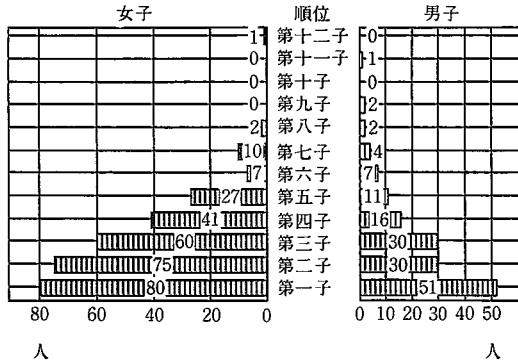


図2 調査対象者の兄弟姉妹順

表4 世帯の構成員 複数回答

世帯構成員	回答数 (%)
祖父	125 (27.3)
祖母	167 (36.5)
父	427 (93.2)
母	432 (94.3)
兄弟 なし	86 (18.8)
1人	140 (30.6)
2人	107 (23.4)
3人	81 (17.7)
4人	22 (4.8)
5人以上	19 (4.1)
姉妹 なし	108 (23.6)
1人	123 (26.9)
2人	102 (22.3)
3人	80 (17.5)
4人	29 (6.3)
5人以上	16 (3.5)
おじ	23 (5.0)
おば	20 (4.4)
同居使用人	28 (6.1)
その他同居人	29 (6.3)
有効回答	458

った。

父母両方と暮らしていたのは413人、父と一緒に暮らしていなかったのが19人、母と一緒に暮らしていなかったのが9人、父母両方と暮らしていなかったという者が2人であった。

兄弟姉妹とともに暮らしていなかったのは38人で、91.7%にあたる420人は兄弟姉妹のいずれかと同居しており、同居している兄弟姉妹数の平均は3.49人である。ここには、家を出て暮らしていた兄姉やまだ生まれていなかった弟妹は含まれていないため、実際の兄弟姉妹数はこれより多くなっている。また、図2が示すように、調査対象者自身は第一子が最も多くなっている。

調査対象者が暮らしていた世帯の構成員については表4に示しているが、世帯構成は、3世代同居世帯(祖父母世代・父母世代・子ども)と核家族世帯(父母世代・子ども)に大きく分かれており、祖父母のどちらかがいる3世代同居世帯は198世帯(43.2%)で、そのうち祖父母両方とも同居している世帯は94世帯(20.5%)であった。祖父母のいない核家族世帯は174世帯(38.0%)で、父母の一方しかいない世帯はそのうち18世帯であった。おじ・おば、兄嫁やその子どもなど傍系の家族がともに暮らしていたのは51世帯で、使用人がともに暮らしていたのは29世帯であった。また、祖父母・父母いずれとも子どもと一緒に住んでいなかった世帯が2世帯あった。

4. 家庭の職業・経済状態

表5は家庭の職業を示しているが、農業世帯は専業・兼業を合わせると全体の63.1%を占めている。兼業農家の世帯は農業の他に漁業、商業などに関わっている。主たる家計の支持者は父親が多くなっているが、表6に示すように、父親が単独で家計を支えている家庭は全体の $\frac{1}{4}$ にしかすぎない。父、母、兄姉、祖父母など複数の人が家計を支え合っている家庭が70%以上の大半を占めている。

表5 家庭の職業

農業専業	236 (51.5)
農業兼業	53 (11.6)
非	
農	
業	
商工鉱業	78 (17.0)
勤め人	42 (9.2)
漁業	16 (3.5)
林業	1 (0.2)
その他	25 (5.5)
無職	3 (0.7)
有効回答	454

表6 家計支持者

	単独回答数 (%)	複数回答数 (%)
祖父	2 (0.4)	78 (17.0)
祖母	3 (0.7)	58 (12.7)
父	118 (25.8)	424 (92.6)
母	8 (1.7)	277 (60.5)
兄	0 (0.0)	87 (19.0)
姉	1 (0.2)	49 (10.7)
その他	3 (0.7)	23 (5.0)
有効回答	135	453

表7 家庭の経済状態

裕福度	回答数 (%)
裕福	56 (12.2)
やや裕福	74 (16.2)
平均的	243 (53.1)
あまり裕福でない	52 (11.4)
裕福でない	32 (7.0)
有効回答	457

また、自分の家庭の経済状態について、調査対象者が表7のような印象を持っていたことが分かった。

[2] 生活時間

ここでは、当時の子どもの一日の生活時間を知るため、小学校へ通っていた平日の過ごし方について調査

をした。まず、起床、就寝、食事、登校、下校、遊び、勉強、手伝いなどの活動を行った時刻と時間について回答を得たが、これらを整理した結果は、論文末に添付した付表にまとめている。起床・就寝時間から一日の活動時間を特定し、さらにそれが、学校にかかわる活動時間、家庭での活動時間にどのように配分されていたか、そして、家庭での子どもの時間がどのような活動にどのぐらいあてられていたかについて把握しようとした。

図3に、全体の平均値から描くことができる当時の子どもの一日の活動の時間配分と生活スケジュールを示している。平均起床時刻は6時12分である。就寝については、81.2%の372人が「子どもは親より先に就寝した」と答えており、平均就寝時刻は9時3分となっている。従って平均睡眠時間は9時間9分、それを除いた一日の活動総時間は平均で14時間51分とな

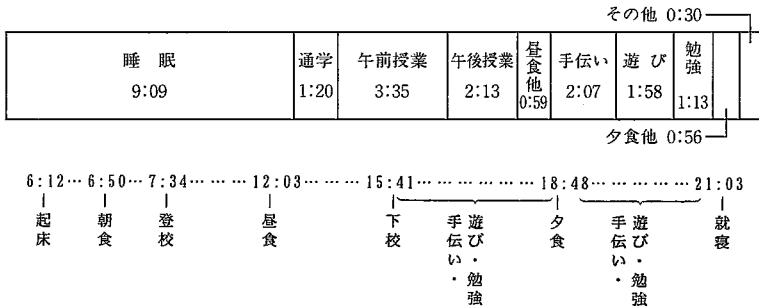


図3 子どもの生活時間と生活スケジュール (平均型)

る。さらに、登校・下校時間から計算した結果、その中の54.7%にあたる8時間7分が学校に関する活動に当てられており、残りの6時間44分は主に家庭での活動に当てられていたと考えられる。学校での活動時間は午前午後の授業を合わせて平均5時間48分、通学時間が往復で1時間20分となっている。家と学校との往復時間を考えると昼の休み時間にはあまり余裕がなかったことになる。家庭での活動時間は手伝いに割かれる時間が最も多くなっており、平均すると2時間7分である。次いで遊び時間が平均1時間58分を占め、勉強時間は平均1時間13分となっている。学校から帰宅後、夕食までの時間は主として手伝いと遊びに向けられ、夕食後の時間は、表8に示したように勉強に向けられる割合が高くなっている。

遊びと手伝いの頻度について質問した結果は表9と表10にまとめているが、子どもの活動に占める手伝いの比重が遊びに比べて全般に大きかったことがこの二つの表からもわかる。毎日手伝いをしたと答えたのが6割なのに対し、毎日遊んだと答えたのは3割である。また、「あまり遊ばなかった」と答えた者が7割近くを占めているのに対し、手伝いを「まったくしなかった」「あまりしなかった」と答えたのは1割である。全体として、手伝いが優先的に行われていたのは確かであろう。しかし、最も多く手伝いをしていた子どもとまったくしていなかった子どもの手伝いの時間差は

表8 夕食後の過ごし方

複数回答

	男 (%)	女 (%)	計 (%)
勉強	43 (28.3)	116 (37.9)	159 (34.7)
手伝い	29 (19.1)	88 (28.8)	117 (25.5)
おしゃべり	31 (20.4)	86 (28.1)	117 (25.5)
読書	24 (15.8)	64 (20.9)	88 (19.2)
就寝	42 (27.6)	46 (15.0)	88 (19.2)
遊び	19 (12.5)	37 (12.1)	56 (12.2)
休息	16 (10.5)	38 (12.4)	54 (11.8)
有効回答	131	282	413

表9 遊びの頻度

	男 (%)	女 (%)	計 (%)
毎日遊んだ	55 (36.2)	87 (28.4)	142 (31.0)
よく遊んだ	43 (28.3)	55 (18.0)	98 (21.4)
時々遊んだ	18 (11.8)	60 (19.6)	78 (17.0)
あまり遊ばなかった	36 (23.7)	103 (33.7)	139 (30.3)
有効回答	152	305	457

表10 手伝いの頻度

	男 (%)	女 (%)	計 (%)
毎日した	83 (54.6)	201 (65.7)	284 (62.0)
週に2, 3度した	20 (13.2)	17 (5.6)	37 (8.1)
時々した	29 (19.1)	52 (17.0)	81 (17.7)
あまりしなかった	16 (10.5)	26 (8.5)	42 (9.2)
まったくしなかった	4 (2.6)	6 (2.0)	10 (2.2)
有効回答	152	302	454

9時間半、遊びと勉強の場合はいずれも5時間半あり、当時の子どもの一日のスケジュールにかなりの個人差が見られたことも事実である。従って、全体的に手伝い時間の占める割合が大きかったと言えるものの、その中でも、個人によって生活時間の差を生み出す多様性が存在していたことを考慮する必要がある。

そうした多様性をとらえるために、子ども達の生活時間についてさらにいくつかのモデルケースを取り上げて描いてみた。手伝い型（手伝い時間4時間以上の子ども：39人）、遊び型（遊び時間3時間以上の子ども：59人）、勉強型（勉強時間2時間以上の子ども：43人）に分け、それぞれの一日のスケジュールを図4に、活動の時間配分を平均と比較したものを図5に掲げた。

手伝い型は一日の活動時間が三つの型の中で最も長く、また、一日の活動時間に占める家庭での活動時間も長くなっているのが特徴である。39人

手伝い型	6:02	6:44	7:38	12:04	15:20	19:16	21:14
遊び型	6:25	6:54	7:43	12:02	15:24	18:58	21:04
勉強型	6:16	6:53	7:35	12:02	15:56	19:34	21:23
	起床	朝食	登校	昼食	下校	手遊び・勉強 夕食	手遊び・勉強 就寝

図4 子どもの生活スケジュール (各型別)

勉強型	睡眠	通学	午前授業	午後授業	昼食他	手伝い	遊び	勉強	夕食他	その他
遊び型	睡眠	通学	午前授業	午後授業	昼食他	手伝い	遊び	勉強	夕食他	その他
手伝い型	睡眠	通学	午前授業	午後授業	昼食他	手伝い	遊び	勉強	夕食他	その他
平均	睡眠	通学	午前授業	午後授業	昼食他	手伝い	遊び	勉強	夕食他	その他

図5 子どもの生活時間 (各型比較)

中最も手伝い時間の長い子どもは一日9時間半の労働を行い、学校にも登校していない。午前中の授業のみ出席して午後は帰宅しなければならなかったと回答している子どもも3人いる。4人が起床後すぐ1時間から2時間の手伝いを行って学校に登校している。そして39人中23人の子どもは、帰宅後すぐから夕食前までの時間と夕食後の時間両方に手伝いを行っている。勉強時間は夕食後にきわめて少ない時間しか割けない状態である。

遊び型の子どもの場合、睡眠時間を多くとっているため活動時間は最も短くなっている。手伝い時間は数字としては少なくなっているが、遊び時間がすべて自由に遊べたというわけではなく、場合に応じて頼まれれば手

伝いを行っていたと答えた者の数が多いことも留意すべきであろう。

勉強型の場合、家への帰宅時間が最も遅くなっている。これは少数ではあるが、補習授業や塾通いの子どもが含まれているからである。夕食前の時間に勉強をする割合も高く、夜中の12時を越えて深夜まで勉強したと回答した者もいた。

このような子どもの活動時間の差はどこから生まれてくるのか。職業、経済状態、家族数の要素を取り上げ、一日の手伝い時間、遊び時間、勉強時間が各要素に関連して差が生じるのかどうか調べてみた。職業については、農業か非農業かによって比較したものを表11に、経済状態については裕福度（表7参照）によって比較したものを表12に掲げ、家族数による比較は表13に示した。比較の結果、農業世帯は非農業世帯より明らかに手伝い時間が長くなっている。また、家族の富裕度は、手伝い時間と勉強時間の長さに影響を与えているように見える。そして、家族数の増加とともに、子どもの手伝い時間は増し、同時に遊び時間と勉強時間が減少することが

読みとれる。当時、農業世帯や経済的に安楽でない家庭、家族数の多い家族では、子どもの家庭での貢献が子ども自身の労働力によって行われることが期待され、実際の子どもの活動にそれ

表11 職業による活動時間比較

平均活動時間	農業世帯	非農業世帯
手伝い時間	2 : 16	1 : 49
遊び時間	2 : 02	1 : 52
勉強時間	1 : 08	1 : 20
有効回答	289	165

表12 経済状態による活動時間比較

平均活動時間	裕福・ やや裕福	平均的	あまり裕福でない・ 裕福でない
手伝い時間	1 : 44	2 : 08	2 : 37
遊び時間	1 : 57	1 : 58	2 : 01
勉強時間	1 : 16	1 : 14	1 : 03
有効回答	130	243	84

表13 家族数による活動時間比較

平均活動時間	4人以下	5～6人	7～8人	9～10人	11人以上
手伝い時間	1:56	2:01	2:06	2:23	2:30
遊び時間	2:07	2:05	1:55	1:56	1:46
勉強時間	1:20	1:18	1:13	1:10	1:05
有効回答	62	109	150	92	45

が現れていたことが示されていると思われる。ちなみに、使用人を抱えている世帯(28人:平均家族数9.6人)では、子どもの手伝い時間は1時間41分と平均よりかなり少なくなっている。

[3] 家庭での活動

前項において、当時の子どもの家庭での活動が主に手伝い、次いで遊びから成っていたことがわかった。「平成3年度調査(下)」においてすでに調査を行っているが、手伝いと遊びの内容についてここでも一通り把握しておくこととする。

まず、手伝いであるが、日課としていた仕事を尋ねたところ表14に示し

表14 日課としていた仕事 複数回答

	男 (%)	女 (%)	計 (%)
風呂炊き	77 (50.7)	120 (39.2)	197 (43.0)
水汲み	72 (47.4)	114 (37.3)	186 (40.6)
掃除	37 (24.3)	149 (48.7)	186 (40.6)
子守	33 (21.7)	136 (44.4)	169 (36.9)
農作業	68 (44.7)	72 (22.0)	140 (30.6)
炊事	6 (4.0)	107 (35.0)	113 (24.7)
薪拾い	41 (27.0)	55 (18.0)	96 (21.0)
店番	1 (0.7)	11 (3.6)	12 (2.6)
その他	13 (8.6)	33 (10.8)	46 (10.0)
有効回答	139	289	428

たような結果が得られた。ここから見た限り、子どもが関わっていた日常の仕事は、農作業を除くと家事が中心になっているように見える。ただし、別に自由記述で手伝いの種類を尋ねたところ、最も多く挙げられたのは農作業であり、田植えや稲刈り、草刈りなど季節的な農作業も含めて、150人（女子68人）が何らかの手伝いをしており、農家においては子ども、特に男子が家業にとって欠かせない存在であったことがわかる。家事に関しては、全体では風呂焚き、水汲み、掃除の順に多く挙げられている。男女別に見ると、男子の場合、風呂焚き、水汲み、農作業、女子の場合、掃除、子守、風呂焚きの順になっている。炊事、子守、掃除は男女の差が顕著に出ており、主に女子に任される仕事であったと言えよう。自由記述で上げられたその他の家事の中で、洗濯が29人により挙げられているがそのうち27人が女子であった。

遊びについては、遊び相手、遊び場所、遊びの種類を調べた。表15に示したように、遊び相手は、男女とも学校の友達より家の近所に住む友達が多くなっており、兄弟姉妹間の遊びもよく行われている。「平成3年度調査（下）」においても、子どもの遊びに学校のつながりより地域的つながりの強さが見られたが、ここでの結果もそれを確認するのである。また、

表15 遊び相手

複数回答

	男 (%)	女 (%)	計 (%)
学校の男友達	81 (53.3)	18 (5.9)	99 (21.6)
学校の女友達	3 (2.0)	134 (43.8)	137 (30.0)
兄弟	44 (29.0)	79 (25.8)	123 (26.9)
姉妹	14 (9.2)	111 (36.3)	125 (27.3)
近所の子供達	111 (73.0)	216 (70.6)	327 (71.4)
祖父	0	2 (0.7)	2 (0.4)
祖母	0	7 (2.3)	7 (1.5)
その他	0	6 (2.0)	6 (1.3)
有効回答	149	303	452

男子同士、女子同士で遊ぶ傾向は全体に強いが、男子より女子の方が異性とも一緒に遊んだという回答が若干多くなっている。遊び場所に関しては、表16のように、家の周りや山川などの近く of 自然の中で遊ぶという回答が多くなっており、家の中や学校での遊びは相対的に割合が低い。遊びの種類は表17に示したが、男女で遊びは共通の部分と異なる部分とに分かれており、男子に野外での遊びが多く、女子には家の内外の遊びが同程度にふくまれ、男子より遊びの種類が多くなっているのは「平成3年度調査(下)」と同じ結果である。今回の調査で比較してみると、女子の遊びとされているものへの男子の参加率の低さに対し——例えば、ままごと、まりつき、人形遊び、綾取り、石けり、ゴムとびなど——、男子の遊びへの女子の参

表16 遊び場所

複数回答

	男 (%)	女 (%)	計 (%)
家の中	10 (6.6)	65 (21.2)	75 (16.4)
友達の家	17 (11.2)	51 (16.7)	68 (14.8)
家の周り	80 (52.6)	226 (73.9)	306 (66.8)
近くの山・川・海	104 (68.4)	106 (34.6)	210 (45.9)
学校	17 (11.2)	34 (11.1)	51 (11.1)
その他	14 (9.2)	16 (5.2)	30 (6.6)
有効回答	149	301	450

表17 遊びの種類

複数回答 () 内の数は男子

お手玉：136(2) かくれんぼ：126(29) 縄とび：82(4) 鬼ごっこ：76(21)
 まりつき：50(1) 石けり：48(2) おはじき：43(0) ままごと：32(0)
 こままわし：26(24) ボール遊び：23(10) 魚とり：23(17) めんこ：20(16)
 戦争ごっこ：20(19) 人形遊び：16 (0) 野球：16 (13) ビー玉：16(12)
 水泳：15(10) 陣取り：13(3) 綾取り：13(0) チャンバラ：13(12) 木登り：12(8)
 かけっこ：12(7) ゴムとび：10(0) 竹馬：8(7) 凧あげ：7(7) 山登り：7(3)
 缶けり：5(0) 虫採り：5(3) カルタ：5(2) けん玉：4(3) 羽子板：4(1)
 竹とんぼ：4(3) 読書：3(0) 音楽鑑賞：2(0) トランプ：2(1) 水鉄砲：2(2)
 相撲：1(1)

有効回答：458

加率は相対的に高い。今回、男子のみから挙げられた遊びの種類は、凧あげと相撲だけである。男子の回答数が全体的に少ないという影響があるとはいえ、「平成3年度調査（下）」においても同様の傾向が見られているだけに、注目すべきであろう。

[4] 家庭での子どもの養育・教育

ここでは、当時の子どもが家庭においてどのように育てられていたかを知らうとした。まず、子どもが学校から帰宅したとき、家庭には誰かがい

表18 帰宅時の在宅者 複数回答

	回答者数 (%)
父	95 (20.7)
母	263 (57.4)
祖父	72 (15.7)
祖母	140 (30.6)
兄弟	212 (46.3)
姉妹	207 (45.2)
おじ・おば	12 (2.6)
使用人	30 (6.6)
その他	7 (1.5)
なし	35 (7.6)
有効回答	447

て、子どもを出迎えることができたかどうか尋ねたところ、表18のような結果を得た。誰もいないと答えたのは35人（7.6%）で、他は家族の誰かが在宅していた。母親の在宅率が最も多いが、6割に満たない。

家族の中で子どもの面倒をよく見たのは誰だったのか。表19に示すように、母、祖母、父、姉、兄、祖父の順で、「平成3年度調査（下）」で得た結果と異なる点は、祖母と父が逆転しているところである。前

表19 よく面倒をみてくれた人

複数回答

	男 (%)	女 (%)	計 (%)
父	28 (18.4)	48 (15.7)	76 (16.6)
母	89 (58.6)	165 (53.9)	254 (55.5)
祖父	9 (5.9)	20 (6.5)	29 (6.3)
祖母	35 (23.0)	76 (24.8)	111 (24.2)
兄	18 (11.8)	30 (9.8)	48 (10.5)
姉	29 (19.1)	59 (19.3)	88 (19.2)
その他	15 (9.9)	29 (9.5)	44 (9.6)
有効回答	151	302	453

回と比べ、三世代同居数の割合が特に多いわけではないので、前回より調査数が多いことが影響したのか、あるいは時代的な微妙な差が現れているのであろうか。この順位は男女とも同じであり、回答数の割合にも男女に大きな差はなかったが、両親からよく面倒を見てもらっていると回答した数が女子より男子にやや多くなっているようである。子どもと家族とのふれあいの様子を知るため、日頃よく話をした家族と、自分が身近に感じていた家族を挙げてもらった。結果はそれぞれ表20、21にまとめられているとおりである。どちらも全体としては母が最も多く挙げられており、父、祖母がそれに続いているが、男女で若干の差がある。男子は異性の姉妹より同性の兄弟とよく話をしていたが、身近に感じていたのは兄より姉の方が数字が高い。女子は母以外では特に身近に感じていたようで、話もよくし、身近に感じていた人として父よりも姉を挙げる割合が高くなっている。父に対しては、男子より女子の方が日頃よく話をしていたと回答する割合が多いにもかかわらず、身近に感じていたのは女子より男子の方の割合が多い。また、男女とも年下の弟妹より年上の兄や姉の方を身近に感じている。母、姉、祖母という家族の中の年上の女性の存在が、日常生活において、また成長の上で子ども自身から非常に頼りとされていたことが示唆さ

表20 よく話をした人

複数回答

	男 (%)	女 (%)	計 (%)
父	26(17.1)	69(22.5)	95(20.7)
母	79(52.0)	161(52.6)	240(52.4)
祖父	15(9.9)	17(5.6)	32(7.0)
祖母	27(17.8)	59(19.3)	86(18.8)
兄	32(21.1)	54(17.6)	86(18.8)
弟	40(26.3)	46(15.0)	86(18.8)
姉	34(22.4)	92(30.1)	126(27.5)
妹	27(17.8)	74(24.2)	101(22.1)
その他	6(3.9)	14(4.6)	20(4.4)
有効回答	149	305	454

表21 身近に感じていた人

複数回答

	男 (%)	女 (%)	計 (%)
父	28(18.4)	50(16.3)	78(17.0)
母	83(54.6)	169(55.2)	252(55.0)
祖父	11(7.2)	7(2.3)	18(3.9)
祖母	25(16.4)	32(10.5)	57(12.4)
兄	18(11.8)	14(4.6)	32(7.0)
弟	14(9.2)	13(4.2)	27(5.9)
姉	20(13.2)	53(17.3)	73(15.9)
妹	7(4.6)	22(7.2)	29(6.3)
その他	2(1.3)	5(1.6)	7(1.5)
有効回答	152	305	457

れている。

子どもに対する家庭の日常の教育態度について知るために、日常行為への注意の頻度と誰が主に注意したかを尋ねた。表22によれば、7割以上の子どもは家庭で日頃注意を受けることがあったと思われる。注意されなかったと回答した中に、理由として、良い子であったためとしている者が少なからず存在するため、残りの3割弱という数字は必ずしも子どもに対する親の無関心さを表すものではない。また、注意をする人としては表23の通り他の家族メンバーに比べ両親が圧倒的に多く、男子が1位に挙げているのは父親、女子は母親である。しつけをするのは誰よりも同性の親の役割であったことがわかる。それでは、当時の親は子どもに対しどのような

表22 日常行為への注意の頻度

	男 (%)	女 (%)	計 (%)
よく言われた	53 (34.9)	103 (33.7)	156 (34.1)
時々言われた	64 (42.1)	108 (35.3)	172 (37.6)
あまり言われなかった	20 (13.2)	71 (23.2)	91 (19.9)
まったく言われなかった	15 (9.9)	19 (6.2)	34 (7.4)
有効回答	152	301	453

表23 注意を受けた人

	1位		2位		3位		計 (%)	
	男	女	男	女	男	女	男	女
父	72	117	34	76	11	22	117 (77.0)	215 (70.3)
母	54	142	65	92	10	17	129 (84.9)	251 (82.0)
祖父	8	7	8	7	8	9	24 (15.8)	23 (7.5)
祖母	5	10	7	17	13	28	25 (16.4)	55 (18.0)
兄	1	5	7	8	20	36	28 (18.4)	49 (16.0)
姉	0	3	5	16	15	26	20 (13.2)	45 (14.7)
その他	1	3	2	13	10	13	13 (8.6)	29 (9.5)
なし	11	19	24	77	65	155	100	251
有効回答	152	306	152	306	52	306	152	306

ことを注意していたのか。自由記述による回答を得て、結果を表24にまとめたが、最も多く挙げられたのは、日常生活の礼儀や作法に関する事柄であった。あいさつや言葉遣いに対する注意もこれに含まれるものであろう。子どもの手伝いに関する事柄も多く挙げられており、子どもが手伝いをさぼったり、うまくできなかったことに対する注意が行われた。帰宅時間に関する注意も、それによって手伝い時間が少なくなることと関係している場合が多い。数字から見て、当時の親は、子どもを頻繁に手ひどく叱っていたというのではなかったようである。親が子どもを叱る主たる方法(表

表24 注意された事柄

	男	女	計
礼儀作法・しつけ	22	83	105
手伝い	19	44	63
勉強	23	23	46
けんか・いたづら	12	23	35
あいさつ・言葉遣い	5	22	27
帰宅時間	9	17	26
性格・態度	3	13	16
人への迷惑	2	13	15
食べ物の好き嫌い	3	12	15
遊びすぎ	7	5	12
騒ぐ・おしゃべり	2	6	8
反抗・口答え	3	4	7
身だしなみ	4	2	6
整理	0	4	4
その他	12	14	26
有効回答	126	285	411

表25 父母の叱責方法

複数回答

	男(%)	女(%)	計(%)
説教	75(49.3)	188(61.4)	263(57.4)
怒鳴る	43(28.3)	59(19.3)	102(22.3)
叩く	23(15.1)	19(6.2)	42(9.2)
閉じこめる	12(7.9)	14(4.6)	26(5.7)
家から出される	4(2.6)	11(3.6)	15(3.3)
その他	1(0.7)	3(1.0)	4(0.9)
叱られたことなし	4(2.6)	26(8.5)	30(6.6)
有効回答	145	294	439

表26 記憶に残る罰

閉じ込められた(47) ぶたれた(33) 追い出された(29) 説教(22) 灸(9) 食事やおやつを抜かれた(8) 怒鳴られた(7) 縛られた(7) 物を捨てられた(4) 水を浴びせられた(3) 立たされた(2) 座らされた(2) 追いかけられた(2) その他(3)

有効回答：178

25) として挙げられているのは、説教が最も多く、8割近くが口頭での叱責を挙げている。しかし、一方で、時には体罰も行われていたことは事実である。当時親から受けて今でも記憶に残っている罰について尋ねたところ、表26のように178件の回答を得たが、22件を除く156件は体罰である。その中では、蔵や家畜小屋に閉じこめられるというもの、打ちやく、あるいは家から放り出されるといったものが多かった。叱られる理由より、叱られ方についてよく記憶している場合が多い。また、親から褒められたことについては、注意されたことに比べてあまり記憶に残っていないようだが、これは実際に褒められることが少なかったことを示すものであろうか。表27に回答結果をまとめたが、手伝いを一生懸命して褒められたというのが数として非常に多く、次いで、学校の成績が良かったなどの勉強に関する理由が続いている。

日常の細々とした注意や叱責とは別に、人間の生き方に触れるような事柄を当時の親は子どもに語っていたのだろうか。表28に示したように、これについても日常の注意と同じく男子には父、女子には母が人生の教訓を語る者として大きな役割を果たしている。今でも記憶に残る父母の教えについて尋ねたところ、様々な回答が得られ、教訓の内容は多岐にわたっている。内容の同じものをまとめた結果が表29に示されている。根本的な人

表27 褒められた事柄

	男	女	計
手伝い	39	101	140
勉強・成績	29	51	80
賞・委員	12	15	27
態度・性格	5	20	25
上手	1	8	9
その他	2	1	3
なし	31	53	84
有効回答	119	249	368

表28 人生の教訓を教えてくれた人 複数回答

	男(%)	女(%)	計(%)
父	81(53.3)	117(38.2)	200(43.7)
母	54(35.5)	142(46.4)	198(43.2)
祖父	16(10.5)	16(5.2)	32(7.0)
祖母	12(7.9)	38(12.4)	50(10.9)
兄	6(3.9)	8(5.1)	14(3.1)
姉	4(2.6)	15(4.9)	19(4.1)
その他	12(7.9)	23(7.5)	32(7.0)
有効回答	149	300	449

表29 父母の教え

	男	女	計
人に迷惑をかけない	12	32	44
正直	14	28	42
親切・優しさ・思いやり	5	29	34
礼儀作法・行儀	6	21	27
神仏・先祖への信心	7	18	25
まじめ・誠実	11	7	18
うそをつかない	5	12	17
盗み・悪いことをしない	7	10	17
節約・物を大切に	5	7	12
言葉遣い・話し方	3	7	10
一生懸命・努力	1	8	9
忍耐・辛抱	1	7	8
素直・従順	1	7	8
勤勉・仕事大事	5	3	8
挨拶	2	6	8
人と仲良く	2	5	7
自分に厳しく	1	6	7
自分のことは自分でする	1	5	6
人に好かれるように	0	5	5
その他	11	19	30
有効回答	100	242	342

表30 家族で一番恐かった人

	男(%)	女(%)	計(%)
父	110(72.4)	185(60.5)	295(64.4)
母	11(7.2)	61(20.0)	72(15.7)
祖父	12(7.9)	9(2.9)	21(4.6)
祖母	2(1.3)	1(0.3)	3(0.7)
兄	10(6.6)	8(2.6)	18(3.9)
姉	1(0.7)	1(0.3)	2(0.4)
その他	0	1(0.3)	1(0.2)
有効回答	146	266	412

としての生き方を説くものが多いが、人との関わりに関する内容も多くなっている。「人に優しく、自分に厳しく」など、「人」という言葉を用いた回答が全体の中で121件あったことからそれが明らかである。人との良好な関係を保つことこそ、家を継ぐ、あるいは家を出ていく子どもの将来にとって最も必要で大切であると当時の親は考

えていたのであろう。逆に予想したより少なかったものとしては「親孝行」(3件)「勉学」(1件)などがあつた。

このような家庭の教育環境の中で、子供とそれを養い育てる家族メンバーとの関係はどのようなものであつたのだろうか。家族で一番恐かつたのは誰かを尋ねたところ、表30に示すように男女とも父親が多数を占めている。男子は父親の次は祖父であり、母親は三番目である。一方、女子は母親を挙げている数の割合が男子よりやや多く、祖父は少なくなっている。男女での多少の差があるが、子どもに対する家庭の教育者、権威者としての父親の絶対的重要性、当時におけるその存在感がはっきりと示されてい

表31 父のイメージ

	男 (回答数)	女 (回答数)	計 (回答数)
1位	厳しい (65) 優しい (19) 忙しい (18) 偉い (14) 恐い (10)	厳しい (104) 優しい (61) 忙しい (27) 恐い (25) 無口 (16)	厳しい (169) 優しい (80) 忙しい (45) 恐い (35) 偉い (24)
2位	恐い (35) 厳しい (21) 暖かい (15) 忙しい・偉い (14) 無口 (9)	忙しい (45) 優しい (42) 暖かい (41) 恐い (34) 偉い・無口 (24)	恐い (69) 忙しい (59) 暖かい (56) 優しい (48) 厳しい (39)
3位	忙しい (30) 無口 (21) 偉い (18) 恐い・賢い (11) 教育熱心 (8)	忙しい (37) 偉い (34) 無口 (33) 暖かい (28) 教育熱心 (22)	忙しい (67) 無口 (54) 偉い (52) 教育熱心 (29) 賢い・話好き (28)
有効回答	428	410	381

表32 母のイメージ

	男 (回答数)	女 (回答数)	計 (回答数)
1位	優しい (81) 忙しい (20) 厳しい (18) 暖かい (12) 教育熱心 (5)	優しい (119) 厳しい (56) 忙しい (42) 暖かい (26) 教育熱心 (10)	優しい (200) 厳しい (74) 忙しい (62) 暖かい (38) 教育熱心 (15)
2位	暖かい (35) 忙しい (21) 優しい (15) 厳しい (14) 賢い (9)	暖かい (80) 優しい・忙しい (48) 恐い (18) 話好き (17) 厳しい (16)	暖かい (127) 忙しい (70) 優しい (69) 厳しい・恐い (25) 話好き (24)
3位	忙しい (31) 話好き (24) 暖かい・従順 (16) 教育熱心 (12) 賢い (8)	忙しい (49) 暖かい (43) 話好き (36) 賢い (24) 教育熱心 (23)	忙しい (80) 話好き (60) 暖かい (59) 教育熱心 (35) 従順・賢い (32)
有効回答	428	413	386

る。

当時の子どもの抱いていたより鮮明な父親像，母親像を得るため，両親に対するイメージを尋ねた結果が表31と表32である。両親それぞれに対するイメージを3位まで選んで挙げてもらったが，その結果挙げられたものを多い順に5位まで表に掲げた。父母を比べると，父のイメージとして「厳しい」「怖い」「偉い」といったいかめしい権威者を表現する言葉が上位に多く挙げられたのに対し，母のイメージとしては「優しい」「暖かい」という表現が多くなっているのが全体として指摘できる。しかし，父に対して「優しい」「暖かい」というイメージも少なからず寄せられており，しかもそうしたイメージを抱いているのは男子より女子に多い。逆に母に対して「厳しい」「怖い」というイメージを抱いているのは男子より女子である。これは，先ほどの同性の親による家庭の教育がそれぞれのイメージに影響を与えていることが理由として考えられる。父母に共通しているイメージには「忙しい」「教育熱心」「賢い」といったものがあり，母にだけ見られるイメージに「従順」がある。また，「無口」な父に対し，「話好き」の母という対立したイメージも存在している。

[5] 兄弟姉妹関係

表33に示すように，兄弟姉妹の仲は良く，男女とも差は見られない。表34には最も仲が良かった兄弟姉妹が示されているが，やはり同性間の絆が深

表33 兄弟姉妹の仲

	男 (%)	女 (%)	計 (%)
仲良く，喧嘩しなかった	51 (33.6)	102 (33.3)	153 (33.4)
仲は良かったが，喧嘩もした	85 (55.9)	173 (56.5)	258 (56.3)
あまり仲が良くなかった	1 (0.7)	5 (1.6)	6 (1.3)
ほとんど接触がなかった	4 (2.6)	4 (1.3)	8 (1.7)
有効回答	141	284	425

表34 最も仲が良かった兄弟姉妹

	男(%)	女(%)	計(%)
兄	40(26.3)	53(17.3)	93(20.3)
弟	36(23.7)	40(13.1)	76(16.6)
姉	29(19.1)	87(28.4)	116(25.3)
妹	19(12.5)	87(28.4)	106(23.1)
有効回答	124	267	391

表35 長男の特別扱い

	男(%)	女(%)	計(%)
そう思う	41(27.0)	88(28.8)	129(28.2)
大体そう思う	41(27.0)	44(14.4)	85(18.6)
そう思わない	54(35.5)	125(40.8)	179(39.1)
有効回答	136	257	393

表36 兄弟姉妹は助けになったか

	男(%)	女(%)	計(%)
そう思う	111(77.0)	223(72.9)	334(73.0)
そう思わない	27(17.8)	52(17.0)	79(17.2)
有効回答	138	275	413

く、どちらかと言えば年上の兄弟の方に対する敬愛の念が強い傾向にある。兄弟姉妹間の平等については、表35に示すように、特に長男は特別の存在として見られるこ

とがやや多かったようであるが、そうでない家庭も4割ほど存在している。これは「平成3年度調査(下)」の結果と若干異なるところである。また、表36に示したように、兄弟姉妹のいた者の多くがその存在が助けになったと答えている。助けとなったのは、主として手伝いをするとき、勉強をするとき、遊ぶときなどで、同世代の兄弟間で、困ったときに助け合ったり相談しあったり、寂しいときには慰めあったりしていた様子がうかがえる。逆に助けにならなかったという回答をした者は、その理由として、歳が離れていることを挙げている場合が多い。一方、家をすでに出ている兄弟からの経済的援助も助けになったという回答もあり、物心両面で、兄弟姉妹の存在は当時の生活において必要とされるものであったことがわかる。当時の子供にとって、親の存在、親との絆はまず絶対的に重要なものであったが、同世代の兄弟姉妹の存在も、連携して助け合えるという点で別の重要性を持っていたのである。

IV. 結 語

以上、太平洋戦争以前の時期の子どもの家庭における活動、家庭での子どもの養育・教育、その人間関係について調査結果をもとに考察してきた。当時の子どもの生活時間は全般的にそれほど余裕のあるものではなく、学校が終わるとすぐ帰宅することを促され、家庭での手伝いが日課として課されることが多かった。特に、職業、経済状況、家族人数などを初めとする家庭環境によっては、それが子どもに強制され、一日の活動の大きな部分を占めることにもなった。また、子どもの手伝いは、実際の必要性から重要だったというだけでなく、家庭教育としても意味も付加されており、家業や家事を手伝うことを通じて子どもは成長を遂げるという意識が強く感じられる。従って、子どもにとっても親にとっても、勉強ないし学校は二次的な存在でしかなかった。ただし、少数の家庭では、学校での勉強を主体とした子どもの教育へ向かう方向性が示されてもいる。

家庭における子供の人間関係を見ると、水平関係である同世代の兄弟姉妹関係よりも、垂直関係にある父母との関わりの方がより強く子どもの側に意識されていたことが調査により明らかになった。同性の親との絆意識が特に強く、しかも、親が子どもに何かを教えることがごく当たり前であると親子双方が考えていた。従って、父親—男子、母親—女子の関係の中で主として家庭教育が行われ、性差のある文化がそれぞれ継承されていくことともなった。また、実際の日常生活のノウハウだけでなく人間としての生き方についても、親の考え、実体験が子どもに伝えられており、当時の子どもが家庭内で親から受け取ったものはきわめて大きいものだったと言えるであろう。⁽³⁾

(3) 本稿を作成するにあたり、データのコンピュータ入力を初めとする作業に由井敦子さんの多大のご苦勞・ご助力を頂いた。記して深く感謝したい。

(付表) 生活時間

1. 起床時刻

	男	女	計
以降 まで			
4 : 30 - 5 : 00	1	0	1
5 : 00 - 5 : 30	8	28	36
5 : 30 - 6 : 00	8	9	17
6 : 00 - 6 : 30	79	176	255
6 : 30 - 7 : 00	11	28	39
7 : 00 - 7 : 30	40	62	102
7 : 30 - 8 : 00	2	2	4
8 : 00	2	1	3
有効回答	151	306	457

2. 就寝時刻

	男	女	計
以降 まで			
19 : 00 - 19 : 30	3	3	6
19 : 00 - 20 : 00	4	0	4
20 : 00 - 20 : 30	29	55	84
20 : 30 - 21 : 00	4	11	15
21 : 00 - 21 : 30	72	139	211
21 : 30 - 22 : 00	8	24	32
22 : 00 - 22 : 30	27	63	90
22 : 30 - 23 : 00	1	1	2
23 : 00 - 23 : 30	2	6	8
23 : 30 - 24 : 00	0	0	0
24 : 00 -	2	2	4
有効回答	152	304	456

3. 登校時刻

	男	女	計
以降 まで			
6 : 00 - 6 : 30	0	1	1
6 : 30 - 7 : 00	2	3	5
7 : 00 - 7 : 30	34	91	125
7 : 30 - 8 : 00	42	111	153
8 : 00 - 8 : 30	67	90	157
8 : 30 - 9 : 00	4	9	13
9 : 00 -	1	0	1
有効回答	150	305	455

4. 下校時刻

	男	女	計
以降 まで			
- 14 : 00	1	6	7
14 : 00 - 14 : 30	10	10	20
14 : 30 - 15 : 00	5	4	9
15 : 00 - 15 : 30	39	80	119
15 : 30 - 16 : 00	13	31	44
16 : 00 - 16 : 30	56	113	169
16 : 30 - 17 : 00	12	21	33
17 : 00 - 17 : 30	10	26	36
17 : 30 - 18 : 00	1	3	4
18 : 00 - 18 : 30	2	5	7
18 : 30 - 19 : 00	1	1	2
有効回答	150	300	450

5-1. 朝食摂取時刻

	男	女	計
以降 まで			
5:30-6:00	0	3	3
6:00-6:30	28	41	69
6:30-7:00	20	57	77
7:00-7:30	81	167	248
7:30-8:00	19	31	50
8:00-8:30	4	7	11
有効回答	152	306	458

5-2. 昼食摂取時刻

	男	女	計
以降 まで			
11:30-11:30	1	1	2
11:30-12:00	4	4	8
12:00-12:30	137	282	419
12:30-13:00	5	10	15
13:00-13:30	3	7	10
有効回答	150	304	454

5-3. 夕食摂取時刻

	男	女	計
以降 まで			
16:30-17:00	0	1	1
17:00-17:30	4	6	10
17:30-18:00	1	3	4
18:00-18:30	36	76	112
18:30-19:00	18	41	59
19:00-19:30	54	116	170
19:30-20:00	12	15	27
20:00-20:30	23	37	60
20:30-21:00	0	2	2
21:00-	0	4	4
有効回答	148	301	449

6. 通学時間

以上 未満	
0:00-0:15	18
0:15-0:30	25
0:30-0:45	219
0:45-1:00	17
1:00-1:15	109
1:15-1:30	2
1:30-2:00	9
2:00-	3
有効回答	402

7. 授業時間

	午前	午後
以上 未満		
0:00-1:00	0	6
1:00-1:30	0	32
1:30-2:00	0	23
2:00-2:30	1	223
2:30-3:00	11	63
3:00-3:30	80	58
3:30-4:00	196	15
4:00-4:30	135	9
4:30-	10	2
有効回答	433	431

8-1. 手伝い時間

	男	女	計
以上			
未満			
0 : 00 - 0 : 30	0	1	1
0 : 30 - 1 : 00	7	17	24
1 : 00 - 1 : 30	25	51	76
1 : 30 - 2 : 00	13	35	48
2 : 00 - 2 : 30	20	47	67
2 : 30 - 3 : 00	6	20	26
3 : 00 - 3 : 30	15	29	44
3 : 30 - 4 : 00	2	12	14
4 : 00 - 4 : 30	11	11	22
4 : 30 - 5 : 00	2	5	7
5 : 00 -	2	8	10
有効回答	103	236	339

8-2. 手伝い開始時刻

	男	女	計
以降			
まで			
5 : 00 - 6 : 00	3	1	4
6 : 00 - 7 : 00	2	2	4
7 : 00 - 8 : 00	0	1	1
8 : 00 - 9 : 00	0	1	1
⋮			
12 : 00 - 13 : 00	0	1	1
13 : 00 - 14 : 00	0	2	2
14 : 00 - 14 : 30	1	1	2
14 : 30 - 15 : 00	2	2	4
15 : 00 - 15 : 30	7	20	27
15 : 30 - 16 : 00	5	16	21
16 : 00 - 16 : 30	26	64	90
16 : 30 - 17 : 00	15	19	34
17 : 00 - 17 : 30	22	42	64
17 : 30 - 18 : 00	8	31	39
18 : 00 - 18 : 30	7	14	21
18 : 30 - 19 : 00	1	5	6
19 : 00 - 19 : 30	4	6	10
19 : 30 - 20 : 00	1	3	4
20 : 00 - 20 : 30	0	3	3
20 : 30 - 21 : 00	0	1	1
21 : 00 - 21 : 30	0	1	1
有効回答	104	236	340

8-3. 手伝い終了時刻

	男	女	計
以降			
まで			
6 : 00 - 7 : 00	1	1	2
7 : 00 - 8 : 00	4	2	6
8 : 00 - 9 : 00	0	1	1
9 : 00 - 10 : 00	0	1	1
⋮			
15 : 00 - 15 : 30	0	1	1
15 : 30 - 16 : 00	0	0	0
16 : 00 - 16 : 30	0	2	2
16 : 30 - 17 : 00	0	7	7
17 : 00 - 17 : 30	17	29	46
17 : 30 - 18 : 00	12	18	30
18 : 00 - 18 : 30	26	55	81
18 : 30 - 19 : 00	5	27	32
19 : 00 - 19 : 30	18	49	67
19 : 30 - 20 : 00	5	9	14
20 : 00 - 20 : 30	12	24	36
20 : 30 - 21 : 00	1	2	3
21 : 00 - 21 : 30	2	0	2
21 : 30 - 22 : 00	0	1	1
22 : 00 - 22 : 30	0	1	1
有効回答	103	230	333

9-1. 遊び時間

	男	女	計
以上 <small>未満</small>			
0 : 00 - 0 : 30	0	0	0
0 : 30 - 1 : 00	5	3	8
1 : 00 - 1 : 30	19	58	77
1 : 30 - 2 : 00	20	46	66
2 : 00 - 2 : 30	22	44	66
2 : 30 - 3 : 00	15	18	33
3 : 00 - 3 : 30	9	13	22
3 : 30 - 4 : 00	8	8	16
4 : 00 - 4 : 30	4	8	12
4 : 30 - 5 : 00	2	3	5
5 : 00 -	1	2	3
有効回答	105	203	308

9-2. 遊び開始時刻

	男	女	計
以降 <small>まで</small>			
7 : 00 - 8 : 00	0	1	1
8 : 00 - 9 : 00	0	1	1
⋮			
13 : 30 - 14 : 00	1	0	1
14 : 00 - 14 : 30	2	3	5
14 : 30 - 15 : 00	2	2	4
15 : 00 - 15 : 30	12	23	35
15 : 30 - 16 : 00	12	20	32
16 : 00 - 16 : 30	40	61	101
16 : 30 - 17 : 00	7	23	30
17 : 00 - 17 : 30	15	32	47
17 : 30 - 18 : 00	9	14	23
18 : 00 - 18 : 30	3	15	18
18 : 30 - 19 : 00	1	2	3
19 : 00 - 19 : 30	0	2	2
19 : 30 - 20 : 00	1	2	3
20 : 00 - 20 : 30	1	2	3
有効回答	106	203	309

9-3. 遊び終了時刻

	男	女	計
以降 <small>まで</small>			
8 : 30 - 9 : 00	0	2	2
⋮			
15 : 30 - 16 : 00	0	1	1
16 : 00 - 16 : 30	4	4	8
16 : 30 - 17 : 00	2	7	9
17 : 00 - 17 : 30	20	30	50
17 : 30 - 18 : 00	8	29	37
18 : 00 - 18 : 30	31	46	77
18 : 30 - 19 : 00	17	25	42
19 : 00 - 19 : 30	16	40	56
19 : 30 - 20 : 00	3	6	9
20 : 00 - 20 : 30	4	9	13
20 : 30 - 21 : 00	0	1	1
21 : 00 - 21 : 30	0	3	3
21 : 30 - 22 : 00	1	0	1
有効回答	106	203	309

10-1. 勉強時間

	男	女	計
以上 未満			
0 : 00 - 0 : 30	0	1	1
0 : 30 - 1 : 00	17	27	44
1 : 00 - 1 : 30	33	87	120
1 : 30 - 2 : 00	7	22	29
2 : 00 - 2 : 30	7	24	31
2 : 30 - 3 : 00	0	3	3
3 : 00 - 3 : 30	1	4	5
3 : 30 - 4 : 00	0	0	0
4 : 00 - 4 : 30	0	3	3
有効回答	65	171	236

10-2. 勉強開始時刻

	男	女	計
以降 まで			
-15 : 00	0	1	1
15 : 00 - 15 : 30	1	1	2
15 : 30 - 16 : 00	0	2	2
16 : 00 - 16 : 30	1	10	11
16 : 30 - 17 : 00	1	2	3
17 : 00 - 17 : 30	4	7	11
17 : 30 - 18 : 00	3	1	4
18 : 00 - 18 : 30	4	6	10
18 : 30 - 19 : 00	2	5	7
19 : 00 - 19 : 30	8	22	30
19 : 30 - 20 : 00	7	25	32
20 : 00 - 20 : 30	21	45	66
20 : 30 - 21 : 00	7	34	41
21 : 00 - 21 : 30	6	10	16
21 : 30 - 22 : 00	1	1	2
有効回答	66	172	238

10-3. 勉強終了時刻

	男	女	計
以降 まで			
16 : 00 - 16 : 30	1	0	1
16 : 30 - 17 : 00	1	3	4
17 : 00 - 17 : 30	1	8	9
17 : 30 - 18 : 00	1	3	4
18 : 00 - 18 : 30	3	3	6
18 : 30 - 19 : 00	1	3	4
19 : 00 - 19 : 30	5	9	14
19 : 30 - 20 : 00	4	2	6
20 : 00 - 20 : 30	8	15	23
20 : 30 - 21 : 00	4	24	28
21 : 00 - 21 : 30	24	61	85
21 : 30 - 22 : 00	5	18	23
22 : 00 - 22 : 30	7	19	26
22 : 30 - 23 : 00	0	1	1
23 : 00 - 23 : 30	1	2	3
23 : 30 -	0	1	1
有効回答	66	172	238

11-1. 団らん時間

	男	女	計
以上 未満			
0:00-0:30	0	1	1
0:30-1:00	16	68	84
1:00-1:30	22	58	80
1:30-2:00	11	13	24
2:00-2:30	5	11	16
有効回答	54	151	205

11-2. 団らん開始時刻

	男	女	計
以降 まで			
-17:30	0	1	1
17:30-18:00	1	4	5
18:00-18:30	2	4	6
18:30-19:00	11	30	41
19:00-19:30	10	23	33
19:30-20:00	14	48	62
20:00-20:30	10	23	33
20:30-21:00	3	14	17
21:00-21:30	3	3	6
21:30-22:00	0	1	1
有効回答	54	151	205

11-3. 団らん終了時刻

	男	女	計
以降 まで			
18:00-18:30	0	3	3
18:30-19:00	0	3	3
19:00-19:30	2	11	13
19:30-20:00	10	19	29
20:00-20:30	16	51	67
20:30-21:00	4	19	23
21:00-21:30	15	34	49
21:30-22:00	2	7	9
22:00-	5	4	9
有効回答	54	151	205